

王子病院 血液疾患診療

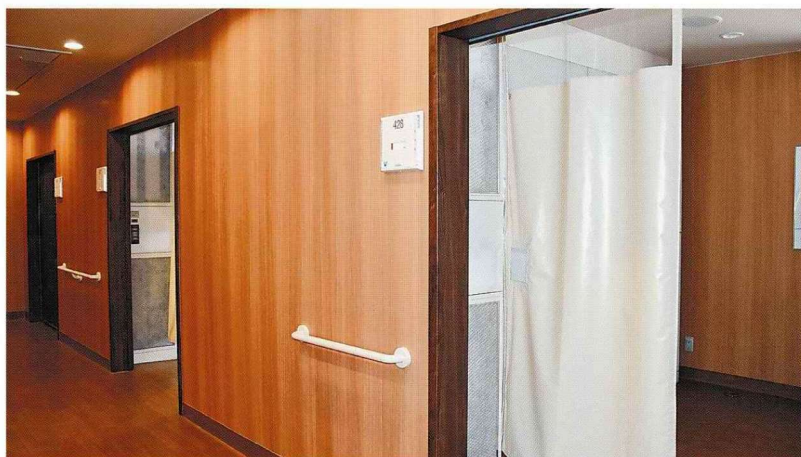
無菌治療 4室に拡充

苫小牧市若草町の王子総合病院（岩井和浩院長）は、白血病などの治療に必要な無菌治療室を3室増設し、1日から運用を開始した。従来運用してきた無菌治療室1室より、空気を浄化するフィルターの面積を大きくするなど機能面も向上させた。同病院は「血液疾患の治療を受ける患者さんの需要に、より一層応えられることができる」と期待している。

（林由樹）



①増設された無菌治療室の室内。手洗い場やトイレなどを備える
②無菌治療室3室の入り口。各室の入り口付近にフィルターが付いた装置があり、入り込む空気を浄化する



無菌治療室は空調設備や高性能フィルターを使用し、きれいな空気を循環させる部屋。白血病などの血液疾患やがんの治療で白血球が減少し、感染症のリスクが高くなっている患者が入室する。苫小牧保健所によると、東胆振で無菌治療室を備えるのは血液腫瘍内科がある同病院のみ。

西4階病棟に3室（1室13・2、14・0平方メートル）を

東胆振で唯一 患者受け入れ強化

増設した。入り口付近に特殊なフィルターが付いた装置を設け、入り込む空気をきれいにろ過して送り込む。室外よりも気圧が高い「陽圧」状態を保ち、室内を適切な清浄度に保つ。

室内にはトイレや手洗い場なども備え付け、壁を木目調の落ち着いた雰囲気にすることでリラックス効果を期待している。

東6階病棟で25年前から運用してきた従来の無菌治療室1室は、近年はほぼ常に稼働している状態。受け入れきれない患者を他の地域で無菌治療室を備えた医療機関に引き受けてもらったり、簡易型の無菌治療室で対応したりしていた。増設した3室のうち1室は、1日の運用開始後、既に患者を受け入れている。

増設費用は血管造影装置2台の更新と合わせて数億円規模になる見込み。岩井院長は「増設によって、この地域で多くの患者を診ることができるよう。病院の診療機能を向上させたい」と話している。